

標 題 : Blood pressure lowering effect of olive is mediated through calcium channel blockade  
オリーブ油の血圧低下作用はカルシウムチャンネル遮断によって介在される

---

著 者 : A. H. Gilani, et al. (パキスタン アーガー・ハーン大学  
医学部 生物学・生物医学科)

---

掲 載 誌 : Intern. J. Food Sci. Nutr. 56: 613-620 (2005)

---

要 旨 : オリーブ(*Olea europea*)は伝統医学で高血圧の治療薬として使用される。オリーブ果実のメタノール水溶液生抽出物(OeF.Cr)を麻酔したラットで研究し、分離した心臓血管系の標本を用いてその可能性のあるメカニズムを解明した。

OeF.Cr の静脈投与で投与量依存性(30-100mg/kg)の動脈血圧の低下が、正常血圧の麻酔したラットに生じた。

この作用はアトロピン投与動物で変化せずに残った。

In vitro 研究で OeF.Cr(0.1-3.0mg/ml)は、自発的に鼓動するモルモットの心房を抑制した。

その上それは 0.1-3.0mg/ml の量で、ウサギ動脈標本の K<sup>+</sup>および/またはフェニレフリン誘発性の収縮を弛緩させるので、カルシウムチャンネル遮断 (CCB) が示唆される。

OeF.Cr による心臓血管系標本の前処理をしたとき投与量依存性で Ca<sup>2+</sup>量依存曲線を右側に動かしたがそれはベラパミルと同様なので、カルシウムチャンネル遮断が確認された。

これらの結果から、オリーブの血圧低下作用はカルシウムチャンネル遮断によって介在されると示唆され、高血圧への使用が正当化される。

キーワード : オリーブ、抗高血圧剤、カルシウム、拮抗薬、ラット

---